

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 13 日作成)

委員会名	構造設計小委員会	主 査 名：佐々木睦朗
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (シェル・空間構造運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：坂 壽二
設 置 期 間	2000 年 4 月 ~ 2004 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	近年のわが国における空間構造の発展はめざましく、1990 年以降にその傾向は顕著である。この要因は、大空間建築を必要とする社会状況および IT 技術の進歩による構造解析技術の普及や個々の開発技術によることも少なくないが、それらを統合する構造設計者の設計技術によるものが大である。この空間構造の構造設計技術を正しく継承し、発展させることを目的として本構造設計小委員会を設置するものとし、その主旨に従って各年度の活動計画を順次たてるものとする。	
委員構成 (委員名(所属))	佐々木睦朗(主査、名古屋大学)、植木隆司(幹事、巴コーポレーション)、アランバーデン(関東学院大学)、阿部優(法政大学)、今川憲英(東京電気大学)、大山宏(千葉大学)、岡田章(日本大学)、川口衛(川口衛構造設計事務所)、斎藤公男(日本大学)、坪井善昭(東京芸術大学)、中田捷夫(中田捷夫研究室)、真柄栄毅(Architectural Science Group)、望月利男(太陽工業)	
設置 WG (WG 名:目的)	編集WG: 刊行予定本「ドーム構造の技術レビュー」の編集	
2003 年度予算	100,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	5月23日、7月18日、9月19日、10月17日、11月21日、1月23日、2月20日 の計7回、参加人数は各回約7名程度
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 具体的な成果にはまだ至らないが、2004年9月に刊行予定の「ドーム構造の技術レビュー」の出版に向けて、大規模ドームの技術報告会および現地報告会を前年度までに各9回開催し、それらを踏まえて今年度はレビューの原稿執筆、編集活動などを行った。なお、原稿は構造委員会の査読を経て3月末に脱稿の予定である。また、これらの活動内容については建築雑誌 JABS(2004年2月号)上に本構造設計小委員会の活動レポートとして詳細に報告を行っている。 委員会 HP アドレス: なし
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 概ね、当初の目標に近いものであったと思う。
その他評価すべき事項	特になし